

第7日

令和6年6月19日（水）

午前11時10分再開

○議長（小島清人君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、1 番日野泰信議員の質問を許可します。1 番日野泰信議員。

（1 番日野泰信君登壇）

○1 番（日野泰信君） 皆さん、こんにちは。1 番議員日野泰信です。よろしくお願いいたします。

さて、先日、サンライズ杷木におきまして、わんぱく相撲大会が行われました。残念ながら、私はコロナにかかってしまいまして、当日、参加することができなくて大変申し訳なかったなと思っているんですが、第5類に移行したとはいえ、コロナの感染力というのはもうすさまじいものがありまして、私も高熱にうなされてしまいまして、改めて、手洗い、うがい、消毒、マスクの使用というのが大事だなというふうに痛感したところです。皆さんもお気をつけいただければなというふうに思います。

わんぱく相撲の話にお話を戻しますが、コロナ前に比べますと、参加者はやはりちょっと少なくなったようではございますけれども、今年も白熱した見応えのある取組が続いたというふうにお聞きしております。わんぱく相撲自体は、第15代横綱、初代梅ヶ谷藤太郎の顕彰記念として毎年開催されています。来年も開催されると思いますので、たくさん子どもたちにまた参加していただければなというふうに思っております。

今、梅ヶ谷藤太郎の話をしてしまいましたが、私、一般質問する際に、毎回、梅ヶ谷藤太郎の話をさせていただいておりますので、今回も少しだけですけども、お話をさせていただければなというふうに思います。

梅ヶ谷藤太郎は、子どもの頃から力が強いというところで、宮相撲ではもう誰も勝てる相手がいないというふうな感じになっています。17歳のときには、筑前の宮相撲でもう彼の右に出る者は誰一人いなかった。ところが、ここで彼はただ一人だけ勝てない相手に出会います。この人が梅ヶ谷藤太郎の将来を大きく変えていくことになるんですが、この方は、筑後国——現在のうきは市に住んでいらっしゃった中津留伴三郎、四股名を小桜という方です。小桜に相撲大会で梅ヶ谷藤太郎は負けます。泥にまみれた藤太郎は、これまでのおのれの自身を振り返り、深く反省し、小桜に頭を下げて教を請います。小桜は、その素直な人柄に心を動かされ、すっかり惚れ込んで、喜んで相撲の手ほどきをします。小桜との出会いこそ、藤太郎にとって決定的な相撲道への登竜門になったというところです。

これを朝倉市の市政に合わせて考えてみます。朝倉市の市政をよりよいものにしていくためには、藤太郎のようによりよいアイデアを出して活動しているその他の市町村に教を請うてでも、その活動をよりブラッシュアップし、熱い思いで朝倉市の独自の活動へと昇華させていくことが必要なのではないでしょうか。

続きは、質問席より、他市町村で実際に行われている行事とかを例えに挙げながら質問させていただきます。よろしくお願いいたします。

(1 番日野泰信君降壇)

○議長(小島清人君) 1 番日野泰信議員。

○1 番(日野泰信君) それでは、通告書に従い、質問をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

まず、原鶴温泉街についてというところでお聞きしたいと思います。

先日、梅ヶ谷公園の辺りを歩いてみました。梅ヶ谷公園の中には、原鶴地区の案内看板というのがあります。志波地域コミュニティ協議会がつくった案内看板にはこういうふうに書いてありました。温泉の発見は、明治14年11月、土地の人が魚を捕りにきたところ、川の中からもんもんと温泉の湧き出ているのを発見しました。大正4年9月に、初めて60度の温泉が湧出し、旅館も6件に増えました。この辺りから原鶴温泉街、一大繁華街に変わっていくというふうな形になると思います。

福岡の奥座敷と呼ばれるような温泉地になっていくというところですが、大正4年9月から今年が109年目です。来年110年になるというところなんですが、大正、昭和の時期の繁栄と比べて、今の温泉街の現状、これを温泉街、商店とかそっちのほうになりますが、どういうふうな感じで市のほうは捉えていらっしゃるのでしょうか。お願いします。

○議長(小島清人君) 農林商工部長。

○農林商工部長(上村一成君) 最盛期の時代に比べ、旅館の減少とともに温泉街の商店等も減少してきております。その原因は、要因につきましては、観光客のニーズの多様化に対応した施設の改修、サービス提供の多種多様化、大分自動車道の開通、交通手段の発達による団体旅行から個人や小グループの旅行へと移行したこと等が絡み合い、現在のこのような状況となっていることがその要因の一つと考えられるところでございます。以上です。

○議長(小島清人君) 1 番日野議員。

○1 番(日野泰信君) 今、お話があったとおり、どんどん商店も減少していつている、昔のにぎわいというのは、商店街・温泉街でいうとどんどん少なくなっているんじゃないかなと思いますが、街自体、原鶴温泉街という街自体をどげんかしていけないかんっちゃないかなというふうに思います。市としては、どういうふうなコンセプトを持って、これから原宿温泉街、こういうふうにしていきたいなとかいうのが何かお持ちでしたらお聞きしたいというところです。よろしくお願いいたします。

○議長(小島清人君) 農林商工部長。

○農林商工部長(上村一成君) 商工観光課的な視点での発言とさせていただきますが、原鶴温泉につきましては、ダブル美肌の湯、県内随一の温泉湧出量を誇る温泉地として知られておるところでございます。福岡都市圏から車で1時間ほどと近いところも、来訪の優位性があるという観光情報発信を行っているところであります。統一されたイメージ計

画につきましては、旧杷木時代から続くデザインされた街灯や看板などを設置しているところでございます。以上です。

○議長（小島清人君） 1 番日野議員。

○1 番（日野泰信君） 今の状況のまんまでしたら、例えば、鵜がデザインされた街灯を設置しているとかいうのはあるにしても、なかなか街自体の景観ですとかそういうのが統一されたものがないので、観光に来ていただける方々にアピールするものが少ないんじゃないのかなというふうに個人的には思っています。例えば、先ほど言いました、温泉街がにぎわい出したのは大正4年で考えますと、例えば、大正ロマンにあふれるような外観の建物、これから、古くなっている建物がたくさんあります。空き地、空家、たくさんありますので、外観だけでもリフォームする。そして、統一したイメージの町並みをつくる。そうすることによって、例えば、海外から来られたお客さんとかが、大正のような町並みの建物がそろっていたら、そこで、アニメの大正を舞台にしたアニメが今あっていますよね、ああいうコスプレをして町なかを歩くとか、いろいろなにぎわいの仕方というのが考えられるんじゃないかなと思うんですが、いろいろそういうことを、例えば、街で今頑張っている地元の商店の皆さん、飲食店の皆さん、そういう方々とこれからの街の状況を把握しながら、振興を図るためにどんな感じのことをしたらいいかというのを話し合うとか、観光協会も含めてそういうことを計画されているとかいうことはないんでしょうか。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（上村一成君） 街というのは、こちらの原鶴の温泉街ということでお答えさせていただきます。

現在のところ、地元飲食店の皆様方との意見交換をする機会をつくっておりませんが、今後、言われますようなことで、観光協会等を含めた意見交換会が実施される場合は、市としても話を伺っていききたいというふうに考えます。以上です。

○議長（小島清人君） 1 番日野議員。

○1 番（日野泰信君） 今、観光協会とかを含めた意見交換会が実施される場合にはというふうにお話しされました。市のほうから投げかけていくというのは計画されないんですか。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（上村一成君） 先ほどの町並み等々の景観の統一というふうになりますと、地元の皆さん方の協力も不可欠だと思っております。そういった意味で、まずは、先ほど申し上げたのは地元からの機運があれば取り組みやすいなという意味合いも含めて申し上げたところですけども、議員おっしゃいますように、私どものほうから何らかの機会を見つけて、そういった場合には今後検討していきたいというふうに思っております。以上です。

○議長（小島清人君） 1 番日野議員。

○1 番（日野泰信君） ぜひ、受け身ではなく、市のほうから投げかけるというような対応も取っていただければと思います。商店で一生懸命頑張っていらっしゃる方たちも、いろいろ考えていらっしゃる場所はあると思います。そういうのを言える場というのを自分たちで設定せないかんじゃなくて、市のほうから設定していただくと余計ありがたいんじゃないかなと思いますので、ぜひともそういうところを考えていただければなと思います。よろしくお願いいたします。

ここ何年か、コロナの関係もありまして、花火大会とかそういうのが中止になったりしています。市のほうで、原鶴を舞台にした何かイベントを考えているとかいうことがあるかどうかというところの質問ですが、質問と一緒にちょっと御提案をさせていただきます。朝倉市では、今、「水もしたたるいいところ」というようなキャッチフレーズも使っていると思います。せっかく水に関するキャッチフレーズがあるんですから、例えば、タイのソンクラーンというお祭りが 있습니다。これ、水かけ祭りというふうに日本では言われますが、タイのお正月に、神様とか自分よりも年長さんの方の手に水をかけて新年をお祝いするというような儀式ですが、近年は、タイのほうではそれがもうお祭り化してしまっていて、観光客も一緒になって水鉄砲で商店街の中を水をかけ合うというお祭りになっています。もう観光客もそれを目当てにタイに来ると、その時期に、というようにお祭りです。

これを日本でも実際にやられている地区があります。例えば、北九州、それから埼玉——スーパーアリーナを借り切ってやるそうです——神戸、いろんなところで同様の行事をしています。あとは、某有名テーマパークとかも夏はそういうようなことをします。そういうのを原鶴の町なかを使って、商店街の人たちがそこで水鉄砲とかゴウグルとかそういうのを販売しながら、街を挙げてそういうお祭りをするというのも、街を盛り上げる一つの手ではないかなというふうに思います。そういうのも踏まえた上で、何かイベントを考えていないのかというのをお聞きしたいと思います。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（上村一成君） 原鶴温泉の町並みを含めまして、原鶴地区の認知度を上げ、原鶴を来訪先として選んでもらうためのイベントPRは大変重要なことであると考えておるところです。

議員がおっしゃいました水かけイベント等、水をテーマとした何かイベントをということですが、地元の皆さんとのこれも連携が当然必要となると考えております。今後の参考とさせていただきたいと思っております。以上です。

○議長（小島清人君） 1 番日野議員。

○1 番（日野泰信君） よろしくお願ひします。先ほど言ったとおり、こういうのも地元との話合いがないことには前には進まないところだと思います。話合いができるような場

を設定というのをよろしく願いいたします。

先ほどからお話しさせていただいておりますが、原鶴温泉街の中には、空き店舗、空き屋、かなり多くなっています。そういうのが利用できればなというふうに思っています。例えば、新しい今で言うところのインスタ映えするようなデザートを売るようなお店とか、そういうのが新しく出店しやすいような補助、そういうのができないでしょうか。今、秋月のほうでは、そういうことに対しての、新しい出店に対しての補助というのが今あっていると思います。同じようなのが原鶴でもできるんじゃないかなと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（上村一成君） 議員おっしゃいますように、現在、秋月藩成立400年記念事業の中で、朝倉市新規開店支援事業補助金というものを令和5年度から実施しておるところでございます。今、まさに議員おっしゃいましたようなことを原鶴においても同様の事業ができないかを検討しているところでございます。ただ、今、検討中でございますので、現段階といたしましては、福岡県が実施しております新たな観光地域づくり補助金というものを活用してもらいたいと思っております。

この事業の内容につきましては、飲食提供、お土産販売等の新規ビジネス費、店舗新設・増設等の立ち上げに必要な出店費用等に対しまして、事業費の2分の1、上限200万円の補助を行うものでありまして、これについては積極的に周知を図っていきたいと考えております。以上です。

○議長（小島清人君） 1 番日野議員。

○1 番（日野泰信君） まずは、県の事業のほう、こちらのほうを積極的に周知のほうをしていただければなというふうに思います。それから、秋月で今行っている分、400年の記念事業が終われば、その分の予算は空くんでしょうから、その分で次は原鶴のほうに、もしくは、どの全部の地域でもいいと思うんですが、活用できるような形に早く検討していただければというふうに思います。よろしく願いいたします。

それでは、次の質問に移らせていただきます。梅ヶ谷公園について聞かせていただきます。

先ほどお話ししましたとおり、ちょっとあそこの周りを回ってきました。そうしましたら、梅ヶ谷公園には、その名のとおり、梅ヶ谷藤太郎の記念碑が置いてあります。名横綱の双葉山さんがその記念碑の設営にも関わっている。本当に歴史的な記念碑がそこには建っているんですけども、なかなか知られていないというのが現状じゃないかなと思います。甘木公園も平塚遺跡公園もとてもすばらしい公園ですが、歴史的な面でいうと、梅ヶ谷公園というのも朝倉にとっては非常に重要な公園じゃないかなというふうに思っています。

昭和9年初めに建立されているんです。でも、昭和28年の水害でちょっと壊れて、今の

場所には昭和34年に再建されています。最初の昭和9年の建立からいうともう今年で90年、昭和34年の再建からでも65年たっているというふうな形です。梅ヶ谷さんの生誕180年が来年、没後100年が2028年と続きますけれども、何かしらこの梅ヶ谷公園を使って、今後、この公園を歴史的な背景も踏まえた上でどのように利用していくのか、何か考えていらっしゃったらお聞かせください。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（上村一成君） 梅ヶ谷藤太郎が活躍した時期につきましては明治期でありますので、取組の映像等が確認できず、当時の強さを知る人も減り、その強さは書籍等でしかうかがい知ることができませんが、最高勝率を誇る横綱時代の成績のみならず、引退後も相撲会の発展に尽力した点も功績としてたたえられたことが記念碑がつけられたゆえんと思われます。誇るべき郷土の生んだ偉人として広く顕彰するとともに、市内外にPRすべき公園であると認識しておるところでございます。

なお、現在、この公園は花見などでも市民に利用されているところでございます。積極的な公園の活用に関しましては、現在のところ計画しているものではありませんが、イベントなどの実施になると、先ほどと同様に地元との連携が必要となるかと思われますので、今後の参考とさせていただきたいと思います。以上です。

○議長（小島清人君） 1 番日野議員。

○1 番（日野泰信君） なるほど、先ほど言ったのと同様になりますけれども、地域との連携を図って、いろいろ活用できるような形にしていいただければと思います。

梅ヶ谷公園についてのコラムを書かれている方がいらっしゃいます。その方がそのコラムの中で語っていらっしゃるのが、「案内標識も何もない。梅ヶ谷の相撲スタイルと同じ地味な公園だ」というふうにそこの中で書いてあります。私は、梅ヶ谷の相撲のスタイルは、まさに横綱相撲なので、地味な相撲ではないというふうに思っているんですが、そういうふうに思われるような公園なんです、今。何か案内看板ですとか、そういう周知することを何か考えていらっしゃったらお聞かせください。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（上村一成君） 現在のところ、誘導サイン等を設置する予定はございませんが、横綱として活躍し、相撲界の発展に尽力された郷土の偉人を周知するためにも、今後、何が必要かを勉強させていただきたいと思っております。以上です。

○議長（小島清人君） 1 番日野議員。

○1 番（日野泰信君） ぜひともよろしくお願いいたします。

それでは、次に移ります。鶺鴒についてお聞きします。

昨年、全国鶺鴒サミットのほうに参加してあるというふうに思いますが、鶺鴒サミットへの参加の成果、何かありましたらお聞かせください。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（上村一成君） 議員おっしゃいますように、令和5年10月19日から20日までの2日間、京都府宇治市で開催されました第25回全国鵜飼サミット宇治大会へ、鵜匠をはじめ、鵜飼いに関わる5名とともに、商工観光課職員1名が朝倉市から参加したところであります。全国の鵜飼い開催地11か所とウミウ捕獲地の関係者が参加し、各地の鵜飼いの紹介、鵜飼いの特徴、問題点が発表されました。

その内容を紹介いたしますと、宇治市では、網を使わない伝統的な放ち鵜飼が鵜の人工ふ化により実現したこと、岐阜県関市の小瀬鵜飼では、長良川の川幅が狭く、雨天時には河川の増水が発生し、この鵜飼いが中止しやすく、ここ数年は、運行日の2割から3割が増水により鵜飼いの中止を余儀なくされていることなどが発表されたとのことでした。

議員お尋ねのサミットの参加においての成果につきましては、鵜飼いが抱える全国共通の課題を共有し、意見交換を行うことができ、各地と情報交換ができる関係を築くことができたことが大きな成果と思うところでございます。以上です。

○議長（小島清人君） 1 番日野議員。

○1 番（日野泰信君） 各地の鵜飼いのいろんな問題点、それから、それに向かってどういうふうに解決しようとしているか、そこら辺、いろいろ成果があったんじゃないかなと思いますので、それを原鶴の鵜飼いでも生かせるようにこれからしていただければなというふうに思います。よろしくお願いします。

鵜飼いをこれからどのようにしてPRしていくのかというところについてお聞きしたいと思います。

5月のニュースで、長良川の鵜飼いで元サッカー日本代表のミッドフィルダー柏木陽介さんが船頭としてデビューしましたとニュースがあっていました。柏木さんは日本代表、サッカーの日本代表で、昨シーズンまでJ3のFC岐阜で活躍されて引退されたというところなんです。今はFC岐阜のアンバサダーを務めながら、今回、知人の勧めというのもあったんですが、自ら岐阜市の活性化のために一肌脱ごうというところで、一般の人たちと同じように面接試験を受けて、船頭として採用されていらっしゃるようです。

こういう方がいらっしゃると、もうそれだけでニュースになる。柏木さんを応援するために鵜飼いに来るというふうな形のすごいPRになっていると思うんですが、それと時を同じくして、同じ長良川の鵜飼いですが、鵜飼いカードというのを作成して、いろんなイベント、鵜飼いに来られた方とかにそのカードを配っていらっしゃるそうです。この鵜飼いカードには、柏木さんも含めたところですが、船頭さんたちの写真と人となり、そして、鵜飼いに関する豆知識を紹介してあります。鵜飼いを次世代に継承するために、あの手この手のPRを長良川の鵜飼いでもやっているというところなんです。朝倉市としては、原鶴の鵜飼いPRするためにどのようなことをされていらっしゃるのでしょうか。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（上村一成君） まず、鵜飼いカードについてお話しさせていただきます

と、朝倉市のほうでも、令和3年度に原鶴温泉旅館協同組合が福岡県中小企業団体中央会の補助金を活用して製作されたものがあります。このカードは、鵜匠さんが名刺代わりに配布するなど、大変好評であったというふうに聞いておるところでございます。

また、何か市がやっているものはないかと、PRをやっているものは何かということですが、鵜飼いのPRにつきましては、今年度、軽トラックに水槽を積みまして、イベント会場のほうに出向いて、鵜匠、鵜が——いわゆる出張ですけれども、鵜飼の実演を実施する事業を市の補助金を活用して原鶴温泉旅館協同組合が主体となる取組を行うところでありまして、もう既にその1回目を先日6月16日日曜日でしたが、アビスパ福岡とサガン鳥栖とのサッカーJ1の試合会場においても行ったところでございます。その結果、そのブースの前には大変人だかりができて、大変好評であったというふうに聞いております。

今後、様々なイベント会場でのPRを行っていくことで、さらに鵜飼いの認知度を上げて、原鶴への誘客に結びつくような取組を支援していきたいと考えております。以上です。

○議長（小島清人君） 1 番日野議員。

○1 番（日野泰信君） いろんなPR活動をしていただいているところで、ありがとうございます。ぜひとも今後も続けていただければというふうに思います。

それと、先ほどの原鶴でも令和3年に鵜飼カードをつくりましたよと、大変好評だったというところですが、長良川のほうの鵜飼カードにもう一度戻りますが、鵜飼カードを1万2,000枚つくって、鵜飼の観覧者とかに配る。その後は、地元のお菓子のおまけにつけることも決まっていると。もう次の段階までもう計画がしてあるんです。令和3年の鵜飼カード、好評やったということやったら、その次の手をそのときに考えないといけなかったんじゃないかなと思います。これは市が主導しているあれじゃないからそれができなかったというのはあると思いますけど、ぜひとも一番手、その次は二の手というのまで考えたところでのPRというのをしていただければなというふうに思います。よろしく願いいたします。

それでは、次に移ります。後継者の育成についてになります。

やっぱり後継者の方がいらっしゃらないというのは、原鶴だけでなく、どこの地域でも同じような問題を抱えていらっしゃるんじゃないかなというふうに思います。例えばですが、鵜匠さんの養成所みたいなのを朝倉市のほうで開設するとかいうことはできないんでしょうか。養成所といっても、建物・施設から全部つくるということじゃなくて、例えば、今、志波小学校の体育館は空いています。そこには会議室があつて、ちっちゃい部屋も幾つかあります。そこら辺を使って養成講座みたいなのを開いて、そこに「鵜飼いちょっとやってみたいな」と思われる方を集めて勉強会を開く。その講師には鵜匠さんに来てもらう。鵜匠さんはそこで講師をすることによって講師料というのをお支払いができる

ような形になると思うんです。そうしたら、鵜匠さんたちの収入のところにも増えるというふうな形になって、悪いことないんじゃないかなというふうに思うんですが、そういうふうな考えというのはどうでしょうか。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（上村一成君） 筑後川の鵜飼いによる鵜匠についてちょっとお話をさせていただきますと、こちらのほうは、特定の数家、少ない家が家の家業として代々引き継ぎ、鵜飼い漁を行ってきたものであります。鵜飼いは県内でも朝倉市だけ、九州でも日田市と2か所で実施され、大変希少性があると考えており、朝倉市の重要な観光資源というふうに認識しているところでございます。

鵜飼い継承の支援策としましては、朝倉市、うきは市、原鶴温泉旅館協同組合、筑後川温泉旅館組合等で組織されております筑後川鵜飼伝統漁法保存会から鵜匠に対し、出漁費、経費等の一部を補助していただいているところでございます。鵜匠の後継者育成につきましては、鵜匠や保存会など、関係団体と連携しながら引き続き考えていくべき課題であるというふうに認識をしているところでございます。

また、議員から御提案いただきました鵜飼い講座に関しましても、後継者育成同様に、関係団体等とお話をさせていただければと考えております。以上です。

○議長（小島清人君） 1 番日野議員。

○1 番（日野泰信君） 世襲制といいますか、その家の人がずっと代々継いでいかないかんということになると、なかなか大変なところがあると思います。歴史的背景からそれを崩したくないというのはあると思うんですけど、それ以外の道も考えておかんとなくなるというところではあると思います。例えば、もうその何々家というのを何々流というふうな形にしてでも、鵜匠になられた方は、今までは何々家、梶原家、臼井家やっただのの名前を引き継ぎながら、代々、第何代目、第何代梶原何がしかいうふうな感じにするとか、いろいろ考えながらやっていかないと大変なんじゃないかなというふうに思いますので、いろんなところと関係機関といろいろお話しされながら、ぜひ、いい方向に行くように検討していただければと思います。鵜匠さんが家でしとうのは、もう今の時期、もう大変だと思います。何とか鵜匠さんたちの力になれるような活動をしていただければなというふうに思います。よろしくお願いいたします。

それでは、次の質問に移らさせていただきます。ゲーミフィケーションによる地域活性化についてというところでお聞きしたいと思います。

ゲーミフィケーションという聞き慣れない言葉なんですけど、簡単に説明のほうをさせていただきます。ゲーミフィケーションというのは——ちょっと待ってください。日本でも近年話題になりつつあるんですが、ゲームの要素をマーケティングや組織づくりに取り入れて、観客やスタッフのモチベーション向上やネットワーキング促進に役立つ手法として注目されていますと。ゲーム的要素、ゲームの要素を中に入れていろいろ行事ごとをして

いくというところですよ。

言葉でいうと難しく感じるかもしれませんが、いろんなところでそれは活用されています。例でいうと、教育現場、例えば、テストで何点取りました。そうしたら、花丸をつけてシールを1個あげます。そのシールが5枚たまったら何かしら大きいシールをくれますとかいうところですよ。それから、図書室、本を1冊借ります。判こがもらえます。10冊借りたら、図書委員が描いたキャラクターのカードがもらえますとか、1日1冊しか借りれないのに2冊借りれますとかというような特典がつく。こういうのがゲーミフィケーション、ゲーム化というところになります。イベントでいうと、スタンプラリーとか、こういうのをすることによって、例えば、各ブース全部回るようにスタンプを押させるというような形、それを全部押したら何かもらえるとかいうふうにしておって、特典もあるというふうな形で購買意欲を促進させたりとかいうところにつながっていくという考え方です。

多分、このゲーミフィケーションという言葉は聞いたことなくても、朝倉市でも今まででも多分この手法でやっている事業というのがあると思います。どのような事業に取り組んできたか、これまで。お聞きしたいと思います。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（上村一成君） このゲーミフィケーションにつきましては、議員おっしゃるとおり、行政の分野においても、シティプロモーションをはじめとして、観光や農業振興など、様々な分野の事業に活用することができまして、これが地域活性化のための有効な手段となる可能性があるということは認識しているところでございます。

どういったこれまでどのようなものに取り組んできたのかということでございますので、市において、観光分野ではございますが、あさくらサイクルスタンプラリーやあさくら3ダムハッシュタグキャンペーン、また、秋月藩成立400年事業で行いました城下町秋月謎解きゲーム、そして、広域観光事業として行っておりますデジタルスタンプラリーなどが挙げられると思います。

今後も、このような事業を積極的に進めていきたいと考えているところでございます。以上です。

○議長（小島清人君） 1 番日野議員。

○1 番（日野泰信君） たくさんこのゲーミフィケーションの手法を取り入れた活動というのを今までもしていただいていたというところで、今後も、先ほどおっしゃったように、いろんな事業を積極的に進めていただければなというふうに思います。

その中の一つで御紹介したいんですが、今、各地で御当地トレーディングカードという手法で地域活性化されているところがあります。例えば、青森県の漁師カード、茨城県のいばらき女将カードというのがあります。両方ともどんなのかというと、青森の漁師カードは、青森県の職員さんが提案して計画して今行われているやつなんです、青森県の漁港の漁師さんたちがみんな自分が捕った魚とか、タコとか、そういうのを持ってこうやっ

て漁師さんが写っているカード、名刺大のカードです。それを各地域の青森の物産店とか、そういうので無料配布しています。初めは、漁師さん50人を説得してモデルになってもらって、それを配っていたみたいなんですけど、現在、登録者が150人を超えています。その方たちが載っているカード目当てに物産店ですとか、道の駅ですとか、そういうところにお客さんが足を運んでいる。

最初に火をつけたのは、まず、カードになる前にポスターで漁師さんのポスターができたんですけど、そのポスターを見た若い女性が「このポスターが欲しい」というので問合せしてきた。それならもうポスターを全部やるのは難しいけんカードにしようというのでカードになったみたいなんですけど、これがバズったというやつです。これで2018年に誕生したんですけど、その後、県内のテレビですとか新聞、いろんなのでメディアで取り上げられています。これで売上げは増加しているというところですよ。

この後、これ去年、次は去年になりますが、茨城県の女将カードというのを去年のデスティネーションキャンペーン——今は福岡と大分でやっていますが——に合わせて茨城のデスティネーションキャンペーン推進室の方がつくられたのがいばらき女将カードというのになります。温泉協会、女将協会ですかね、のおかみさんたちに直談判してカードをつくりましょうと、皆さんのカードをつくりましょうとやってカードをつくって、それこそまた物産店で初めは無料配布しています。その後に地元のお菓子、ポップコーンの会社の工場があるらしいので、そのポップコーンのおまけとして、プロ野球チップスですとか仮面ライダーチップスみたいな感じでくっつけて200円で販売した。これが4万3,000袋、これが全部完売しているというふうな形です。これを問合せして、茨城にお越しになられている方がたくさん増えたというところですよ。

カードをつくることによってこれだけの反響があっているというところなんですけど、朝倉でも鵜飼いカードみたいなのをつくられたというのが過去にありますけれども、今後、こういうことに積極的に取り組まないかなという御提案です。どうでしょう。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（上村一成君） 先ほど申し上げました鵜飼いカードは、大変好評でありましたというふうに申し上げました。その際に議員のほうからも、その第2弾としてお菓子等々のセットでというような話を伺ったところでございます。私どものほうとしても、そのような成功事例を参考としまして、また、全国の状況等を情報収集しながら、今後勉強させていただきたいというふうに思います。以上です。

○議長（小島清人君） 1 番日野議員。

○1 番（日野泰信君） ぜひとも検討していただければと思うんですが、その中でもう一度、もう一回提案です。同じようにカードをつくるとすれば、朝倉やったら何やろうというところでちょっと自分なりに考えてみました。やっぱり朝倉で考えるならば農家の皆さん、農家の皆さんをカード化するというのはどうかなというふうに思っています。農家の

方が自分のところで生産された果物なり野菜なりを持って、にこやかにほほ笑んでいるところのカードを作成して、それを朝倉の福岡とかであるような物産店等からまずは無料配布してみる。それが好評ならば、何かお菓子につけて道の駅なんかで売ってみる。そこには農家さんの情報が載っていたりとかそういうことで、その農家さんに直接QRコードとかで連絡が取れるとかいうふうにしてもいいでしょうし、それができないならば、普通の名刺代わりにその農家さんが使うような形もできるんじゃないかなというふうに思っています。

農家さんカードと別に、今、農家さんが別につくっている、個人でつくっている農カードというものもあります。これは個人でつくっていらっしゃって、それこそ名刺代わりに使っていらっしゃいます。通信販売とかで自分のところの作物を送るときに、一緒に入れて送られているというふうな形でつくられているみたいなんですけど、こういうカードをつくって道の駅とかで販売をすれば、本当に地域活性化が図れるんじゃないかなというふうに思っています。市としてはどういうふうにお考えでしょうか。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（上村一成君） まず、議員おっしゃいました農カードについて少し説明させていただきます。

この農カードというものは、三、四年前から全国的に取組が始まっているものでございます。取組に賛同する農家がカードに掲載する内容を申請し、審査で許可された内容で、協賛する印刷業者にカード作成を発注する形で展開されておりまして、約170種類のカードが現在登録されているとのこととあります。カードには、議員おっしゃいますような個人のホームページなどにつながるQRコードが印刷されるなど、名刺の代わりとして使用でき、個人農家の販売促進につながる取組となっているところでございます。このカードの取組につきましては、個人農家の販売促進の面が強いと考えておりまして、JA出荷など団体で取り組む形態や直売所での販売にどれほどの効果があるかは、今後、研究が必要であるかと思っております。

一方で、先ほどからお話が出ておりますお菓子メーカーとコラボした茨城県の旅館生活衛生同業組合の女将カードつきのお菓子の販売につきましては、コレクション的要素も高く、カードには旅館の情報や近隣の観光スポットの情報も掲載されているということで、地域の情報発信としての効果もあることから、農家カードのほか、朝倉市の魅力ある素材をカードにすることも地域活性化のための一つと考えているところでございます。また、カードに限らず、様々な視点からゲーミフィケーションの手法を模索していきたいと考えております。以上です。

○議長（小島清人君） 1 番日野議員。

○1 番（日野泰信君） よろしくお願ひします。ゲームに限らずとも、ゲーミフィケーションという考え方自体はどれにでも活用できる考え方だと思いますので、ぜひ活用してい

ただければと思います。

ゲーミフィケーションの6要素というのがありますので、それをお伝えしたいと思います。まず1番目、能動的な参加。楽しそう、やってみたいと思わせることです。女将カードでいうと、ポップコーンについているインパクト、全部で28種類あって、あえて茨城に行かんと買えんというところが欲しいと思わせるということです。2番目、達成可能な目標。それならできそう、1袋200円で買ったならカードもついてくる、これなら買えるんじゃないというふうに思っただけのこと。3番、賞賛の演出。褒められることです。お土産に買っていくと、ほかの人が面白がってくれる。レアカードには特典もある。4番、即時フィードバックアンドソーシャル要素。すぐに反応がある。仲間がいる。お菓子を買ってきて、みんなで袋を開けたらすぐに女将カードが見れる。仲間とカードを見せ合うと楽しめるというところ。5番目、成長の可視化。だんだんできるようになる。カードがだんだん集まってくるのが目に見えて、コレクション、これのコンプを目指すというところの意欲が出てくるということです。それから6番、独自性の歓迎。工夫してよいということです。どんな遊び方をそのカードを使ってしてもいいということです。これは、この6つの要素というのは、カードゲームに限ったことじゃなくて、何にでも当てはまるところだと思いますので、ぜひとも、この要素を含んだところでいろんなゲーミフィケーション、ゲーム化した事業というのを計画していただければなというふうに思います。

最後に、ゲーミフィケーションを取り入れたサービスを地方から生み出すにはというところで、日本ゲーミフィケーション協会の方が書いたコラムにまとめとして載っている文章を紹介したいと思います。

ゲーミフィケーションを取り入れたサービスを地方から生み出すには、4つの要素が必要ですというふうに言っています。原文のまま読みます。とがったアイデアとそれを熱意を持って周りに説いて回る行動力、アイデアマンと実行部隊のペアが必要ですというのが一つ。2番目、まずプロト版をつくる。その講評や反省を生かしてブラッシュアップして完成版にする。これが2つ目です。3つ目、逆境の先のゴールには、周りの人たちのモチベーションをも上げる力があると信じる。持久力、これが必要だというふうに言われています。そして最後、新しいこと、面白いことを率先する一番偉い人がいる。この4つがゲーミフィケーションを取り入れたサービスを地方から生み出すには必要なことだというふうに書いてあります。

朝倉市には全てそろっていると私は思っています。ぜひとも、新しいこと、とがったアイデア、こういうのをぜひとも取り入れていただいて、いろんな活動を、事業をしていただければなというふうに思います。アイデアは出しました。実行部隊が出てくるのをお待ちしたいと思います。

これで私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（小島清人君） 1番日野泰信議員の質問は終わりました。

暫時休憩いたします。午後 1 時に再開いたします。

午後零時 8 分休憩